

ことばだより No.30

ことばのもり 2003.7.16

■■■■INDEX

ことば徒然 子どもの欲求



ことば徒然 子どもの欲求

生理的欲求

乳児は、食べたい、眠りたい、休みたいなど生命活動に必要な欲求を泣くことで表現します。

母親はその表現に答えて、ほほえみながら、ミルクを与え、やさしくダッコし、あやします。

母親のこうした行動により、乳児は母親への愛着を育てていきます。

安全欲求、愛情の欲求

生後6、7ヶ月もすると、母親以外の人に抱かれると、不満な顔をしたり泣き出したりします。

母親以外の人を区別し、嫌います

このことは、母親への愛着が育ってきている証拠なんです。

やがて、時間がたつと、母親の周りにいる父親、祖母、祖父も愛着の対象となります。

家族の中で、信頼の輪を広げていきます。

成就の欲求、独立の欲求

また母親への愛着が育つと、母親の行動を模倣しはじめ、見慣れた人の身振りを模倣し積極的なかわりをもとうとします。

自分で食事をしよう、衣服をぬごう、着ようとしはじめます。

何度も、くり返し、練習します。

大人が手伝おうとすれば、「いや」といって抵抗もします。

一人でやらせると、失敗することもあります。

しかし、一人でやりたいと練習し、一つひとつのことを獲得していきます。

承認の欲求

こうして、基本的生活習慣が身についてくると、身の回りのことを自分で処理できるようになります。

「自分にもこれだけのことができるんだ」という自信が生まれてきます。

親の指示に「いやだ」「できない」と逆らうことも多くなってきます。

自分を意識し、自己主張しているのです。

夏休みです。

一日に一回、今日は子どもがどんな欲求を表現したか、ふりかえってみてください。

漂泊鳥から

30号まで続けることができました。

ご購入いただき、ありがとうございます。

ことばだより No.29

ことばのもり 2003.7.9

■■■■INDEX

ことば徒然 ことばの教室で

発音の誤りへの指導

■■■■■■■■■■

ことば徒然 ことばの教室で

認知能力にばらつきがあると、小学校の生活では、学習に問題をもたらします。
たとえば、話はいっぱいするが、先生の指示を理解できない、
1対1で言えば分かるが、集団に対して言えば理解できない、
テストをすれば理解していることが分かるが、授業中、関係のないことをしてい
る、

落ち着きがなく、授業中なのに席を離れてしまう、

国語はできるが算数はいやがり、理解していない、

ひらがなや漢字は読めるが、書けない、

などです。

これらの問題を軽減、改善するには、長期の取り組みが必要です。

仮説を立て、指導し、1学期、1年後に評価し、取り組みつづけます。

この取り組みで、言語性の低さが改善し、ことばの教室の指導に頼る必要がなくな
れば指導を終了しています。

発音の誤りへの指導

長期間誤った発音でいた場合や、
ある行の一音だけが誤っていたり、ひずんでいる場合、
改善するまで時間がかかることが多いです。
このような子どもには、次のような指導もします。
他者の発音を聞き分けさせます。
単音から連続音、無意味連続音で正しい発音かそうでないかを聞き分けさせます。
単音で出し分けている発音を録音し、そのテープを聞いて、聞き分けをさせます。
単音から連続音、無意味連続音で正しい発音かそうでないかを聞き分けさせます。
何番目の発音が誤っていたか？聞き分けさせます。
自分の発音を聞きとめて、今の発音は正しかったか、誤っていたか確認できるようにしていきます。
誤っているときには言いなおしをできるように指導していきます。

●—————●
漂泊鳥から

つばめのひなが飛ぶ練習をしています。

巣に戻ってきては、飛び出していきます。

●—————●
=====
ことばだより No.28

ことばのもり 2003.7.2
=====

■■■■INDEX

ことば徒然 発音の誤りに

言語性を伸ばす指導 絵カードをならべて



=====
ことば徒然 発音の誤りに
=====

単音で出れば、連続音、無意味連続音が正しく発音できるように取り組みます。
子どもへの励ましと子どもをあきさせない工夫が必要です。
子どもも意識して発音していますから、ずいぶん疲れます。
ときには休んでみたり、課題は同じでもパターンを代えて子どもに提示していきます。
そして、ことばや文で発音できるように取り組んでいきます。
このときも、正しい発音のパターンを意識しないと、ついついそれまでの誤った発音がでてきてしまいます。

大切になってくるのが、自分の発音が正しいのか、誤っているのかを判定できる耳です。

判定できる耳が育っていれば、誤った発音をしても、自分で訂正することができます。

最終段階の会話レベルの発音を確かめ、日常生活でチェックする時間を少しずつ長くしていきます。

誤った発音のパターンを正しい発音のパターンに変える必要があります。

自分の話しのスピードでも、新しい発音の運動パターンができないと何にもなりません。

だから、誤った発音を改善するには、ある程度の時間が必要なんです。

言語性を伸ばす指導 絵カードをならべて

その3 絵カードを見せて、お話を作り、モデルを示しながら、想起させる、模倣させる。

遠足が終わったところに

遠足に行く子ども、お弁当、水筒、おやつの絵カードを一枚ずつ見せて、文を作ります。

えんそくにいきます。

おべんとうをもっていきます。

すいとうをもっていきます。

おやつをもっていきます。

バスでいきます。

どうぶつえんにいきます。

どうぶつえんには、ぞうがいます。

・・・

と文を書きます。

そのあとに

「・・・君は遠足に何を持っていったの？」

「・・・君は何に乗っていったの？どこに行ったの？」

「そこに、なにがあったの？なにがいたの？」

と聞いて、返事を待ちます。

書いた文がありますから、返事をしやすくなります。

漂泊鳥から

かいつぶりの浮き巣で、ひながかえりました。

1 羽のひなが、水にはいれば、みんなが水にはいています。

ことばだより No.27

ことばのもり 2003.6.25

■■■■INDEX

ことば徒然 問いに対応した答え方

言語性を伸ばす指導 教科書を使って



ことば徒然 問いに対応した答え方

聞き取りの弱い子どもに、一音を聞き取り、答えることをねらいに取り組みます。
場面絵カードで質問し、
はじめは場所を答えさせます。

次は「で あそびます。」「へ いきます。」「に おきます。」と書いた単語カードも見せて、問います。

子どもは問いに対応した単語カードを選び、場所をつけて答えます。

そして「で」「へ」「に」と書いた文字カードを見せて、問います。

子どもは問いに対応した文字カードを選び、場所とどうするのかをつけて答えます。

念のために、「あそびます」「いきます」「おきます」と書いた単語カードを見せて、問います。

子どもは問いに対応した単語カードを選び、場所と「で」「へ」「に」をつけて答えます。

言語性を伸ばす指導 教科書を使って

1年こくご上の教科書に「どうぞのいす」がのっています。

ここでは、文のたし算が勉強できます。

「ろばさんは いすに かごを おろしました。」

「(ろばさんは) ねてしまいました。」
この二つの文をたして、教科書には
「ろばさんは いすに かごを おろして、ねてしまいました。」
と書かれています。
また「(くまさんは) はなを かかえました。」
「(くまさんは) かわりに みつを おいて いきました。」
この二つの文をたして、教科書には
「(くまさんは) はなを かかえると、かわりに みつを おいて いきました。」
と書かれています。
このことを話した後、

文のたし算を子どもにさせます。
給食を配っている絵カードを見せて、文を作ります。
そして、給食を食べている絵カードを見せて、文を作ります。
つぎに文のたし算です。
「きゅうしょくを みんなに くばって、たべました。」
「きゅうしょくを みんなに くばって、いただきますを しました。」
こんな文ができました。

漂泊鳥から

図工室前のツバメの巣から、ひなが顔を出しています。

はじめは、下を歩く足音だけで顔を出し、鳴いていました。

最近は、親鳥の羽音、鳴き声を聞き分けているのか、それとも寝ているのか、
足音には反応しません。

「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にお寄せください。

<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/vybbbs/vybbbs.cgi>

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

■■■■INDEX

ことば徒然 問いに対応した答え方

言語性を伸ばす指導 場面絵カードを使って



ことば徒然 問いに対応した答え方

～で遊びます。このときの「で」は場所を表します。

～へ行きます。このときの「へ」は方向、方角をあらわします

～に置きます。このときの「に」は場所、方向を表します。

ややこしいのが、「へ」と「に」です。

「～へ行きます。」「～へ置きます。」と会話では使っています。

きっと、使い分けていたことがあったのでしょう。

教室では、次のことを教えます。

どこで遊びますか？～で遊びます。

どこへ行きますか？～へ行きます。

どこに置きますか？～に置きます。

それぞれの問いに、対応した答え方をできるよう教えます。

言語性を伸ばす指導 場面絵カードを使って

食事をしている絵カードと歯磨きをしている絵カードを見せます。

「何をしていますか？」

と問います。

「みんなで ゆうはんを たべています。」

「はを みがいて います。」

「～と」「～て」「のあとに」「そして」「そのあと」

などの、つなぐことばを教えます。

つなぐことばを使って、文を作ります。

「みんなで ゆうはんを たべています。そのあと、はを みがきます。」

● ●
漂泊鳥から

ツバメの飛び方がうまくなったように思いのは

自分だけでしょうか？

「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にお寄せください。

<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/yybbs/yybbs.cgi>

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

=====
ことばだより No.25

ことばのもり 2003.6.11
=====

■■■■INDEX

ことば徒然 集中時間の短い子に
指導で

■■■■■■■■■■

=====
ことば徒然 集中時間の短い子に
=====

その4 課題すごろくをつかって

10個のオセロのこまを並べておきます。

「きょうはこの数だけ、勉強します。」

ひとつ終わるごとに、こまを裏返していきます。

全部裏返せれば、その時間の指導を終わります。

=====
指導で
=====

発音の練習にことばの教室に通う幼児の場合、集中時間はそれほど長くはありません。
(あたりまえのことですが・・・)

あがりのところにいけば、その日の嫌な練習もおわりです。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

ことばのもり 2003.6.4

■■■■■■■■

ことば徒然 集中時間の短い子に

課題の一つが終われば、子どもが線を引き、チェックします。

メモに書いてある課題全部にチェックが入れば、その時間の指導を終わります。

指導で

発音に誤りのあるこんな子どもが通っていました。
集中時間が短く、動作性より言語性の能力が高い子どもです。
視覚認知力が低く、ひらがなの習得に時間がかかりました。
漢字も一画ずつ、言語化して習得していきました。
ある学年から、その子の指導をするようになりました。
本好きで話し出すと面白いことも言います。
しかし、書くのに時間がかかり、話をまとめきれないことから作文を嫌がっていました。

1時間の課題を聴写させることから取り組みました。
「国語からするよ」といえば「こくご」と書いていました。
「ことばの勉強でこの絵カードのお話しをして」といえば「絵カードの話し」と書いてから、お話しをするようにしていました。

また、1時間の指導でわかったことを書かせました。
順番を表すつなぎ言葉をつかうこと
会話文だけで書くこと
一文を短く書くこと
などを指導していきました。

この子への指導を終えたころは、作文を嫌がらなくなっていました。

漂泊鳥から

この季節に、台風が上陸。

被害はありませんでしたか？

「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にお寄せください。

<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/yybbs/yybbs.cgi>

ことばだより No.23

ことばのもり 2003.5.28

■■■■INDEX

ことば徒然 集中時間の短い子に
言語性を伸ばす指導 2枚の絵カードを使って



ことば徒然 集中時間の短い子に

その2 課題カードをつかって

「ことば」「かず」「こくご」「さんすう」「国語」「算数」などと書いた課題カードをはじめに提示する。

「きょうは、これだけ勉強をします。」

課題のひとつが終われば、そのカードをしまう。

課題カードがなくなれば、その時間の指導を終わる。

この方法だと、1の方法と反対に何をするのかはわかりませんが、どれだけするのかはわかりません。

1、2の方法とも問題はあります。

ただ、学習の仕方は子どもによってパターン化していますから、継続して取り組んでいくことで、1時間の指導にも集中するようになっていきます。

言語性を伸ばす指導 2枚の絵カードを使って

[きょうは さむいです。] [エアコンをつけました。]とそれぞれの文を書いたカードを見せて読みます。

そのあと、

[けれども] [だから]

二つの文を読み比べます。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

ことばのもり 2003.5.21

言語性を伸ばす指導 2枚の絵カードを使って



ことば徒然 集中時間の短い子に

その2 課題カードをつかって

「ことば」「かず」「こくご」「さんすう」「国語」「算数」などと書いた課題カードをはじめに提示する。

「きょうは、これだけ勉強をします。」

課題のひとつが終われば、そのカードをしまう。

課題カードがなくなれば、その時間の指導を終わる。

この方法だと、1の方法と反対に何をするのかはわかりますが、どれだけするのかはわかりません。

1、2の方法とも問題はあります。

ただ、学習の仕方は子どもによってパターン化していますから、継続して取り組んでいくことで、1時間の指導にも集中するようになっていきます。

言語性を伸ばす指導 2枚の絵カードを使って

[きょうは さむいです。] [エアコンをつけました。]とそれぞれの文を書いたカードを見せて読みます。

そのあと、

[けれども] [だから]

とつなぐことばを出します。

「どちらのことばでつなぐかな？」と問います。

正しいことばを選んだら、

「そうです。寒いから、あたたまりたいよね。だからエアコンをつけるよね。」

「今日は寒いから、エアコンをつけました。と言うのと同じ意味だよ。」

と説明します。

そして、

「[きょうは さむいです。] [けれども]とつないだら、[エアコンを]どうしているのかな？」

と問います。

二つの文を読み比べます。

ことばのもり 管理人 漂泊鳥

ことばのもり 2003.5.14

ことば徒然 集中時間の短い子に

そのときに、教材を探しては、ちがうものに関心が移ってしまいます。

また、何をどれだけするのか、がわからなければ、不安に思います。
TEACCH プログラムに、子どもたちが見通しを持って活動できるように「実物によるスケジュール表」「絵によるスケジュール表」「文字によるスケジュール表」というのがあります。
これを参考にして取り組んでいます。

その1 課題箱をつかって

指導時間につかう絵カード、本、ノートなどを見せる。
「きょうは、この箱の中のものをつかって勉強をします。」

箱の中の課題をひとつずつ取り出し、していく。
終わればちがう箱に入れていく。
はじめの箱が空になれば、その時間の指導を終わる。

この方法では、はじめ何をするのかは分かりません。
しかし、どれだけすればおわりなのか、すぐに理解できるでしょう。

言語性を伸ばす指導 場面絵カードを使って

園児用に、入学式後の学校生活の流れを絵カードに描いたことがあります。
不安傾向のある子どもに、卒園前にこれを使って、指導します。
教科書やノート、筆箱をランドセルに入れている場面、
給食を食べている場面
遠足の場面
梅雨になり、傘をさして登校する場面、
水泳学習の場面
などが一枚の画用紙に描いてあります。

●—————●
漂泊鳥から
遠足に行き、山つつじの花を見てきました。

「ことばだより」の感想は「もりの掲示板」にお寄せください。

<http://www3.kcn.ne.jp/~ntakashi/cgi-bin/yybbs/yybbs.cgi>

ことばのもり 管理人 漂泊鳥
